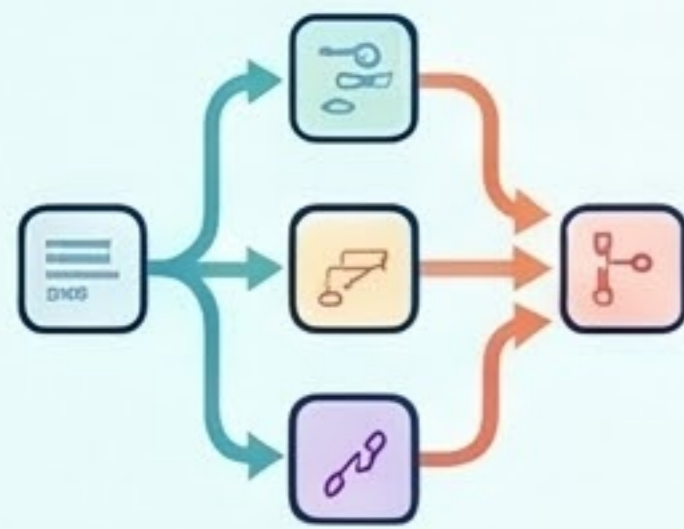


# Claude Opus 4.8 変える知財実務：自律型AIエージェント時代の二層型組織戦略



4倍

「正直さ」が向上  
欠陥を見逃さない確率が向上、  
不完全なデータ結果を誤って報告する率が0%に



Dynamic Workflowsによる自律遂行  
数百のサブエージェントを並列起動、数日にわたる複雑なタスクをセッションを跨いで完遂



エンジニアリング能力の飛躍  
競合他社のモデル (GPT-5.5等) を上回るエージェント能力を実証

## 企業が今すぐ取るべき3ステップ

フェーズ1: 統制基盤の確立 (0-3ヶ月)

フェーズ2: 業務別パイロット (3-9ヶ月)

フェーズ3: 組織と人材の再編 (9-18ヶ月)



商用契約・VPC経由への切り替え、情報の三分類 (AI入力可否) の判定、野良AIの可視化



調査や初稿作成でHOTL (人間監視) 運用を開始し、リスクに応じた「AI卒業基準」を設計



担当者の役割を「AIオーケストレーター」へ再定義し、KPIを出願件数から事業貢献へとシフト

## 二層型組織モデル



人間主導の「戦略・価値創造層」

FTO (侵害予防) の最終判断、権利範囲の戦略的設計

経営層への提言、ライセンス交渉

高度な判断は人間が担います

AI主導の「オペレーション層」

先行技術調査、明細書初稿、OA論点整理

翻訳、特許マップ生成などの定型業務

定型業務をAIが高速処理します

## 実践企業による圧倒的な成果

- 三井化学：文献調査を1か月から1日に短縮
- 島津製作所：発明届出工数を50%削減



## ガバナンスとリスク管理の鉄則

約67万ドル  
シャドーAIによる侵害コスト  
統制外の「野良AIエージェント」利用による情報漏洩、1レコードあたり最高\$178のリスク

監督フレームワーク (HITL / HOTL)

- 高リスク業務：人間が承認 (HITL)
- 中リスク業務：人間が監視 (HOTL)

リスクに応じた段階的な監督が必要

日本の法的枠組みへの準拠  
弁理士法第30条の守秘義務や2026年3月版「AI事業者にガイドライン」に沿った、適切な契約 (ZDR等) とアクセス制御が不可欠